

シ相とキクイムシ相に及ぼす影響. 昆虫ニューシリーズ, 10: 21–32.

末吉昌宏・前藤 薫・榎原 寛・牧野俊一・祝 輝男, 2003. 皆伐後の温帯落葉樹林の二次遷移に伴う双翅目昆虫群集の変化. 森林総合研究所研究報告, 2: 171–191.

Zeran, R. M., Anderson, R. S., & Wheeler, T. A., 2006. Sap beetles

(Coleoptera: Nitidulidae) in managed and old-growth forests in southeastern Ontario, Canada. The Canadian Entomologist. 138: 123–137.

(2013年8月15日受領, 2013年9月1日受理)

【短報】トカラ列島諏訪之瀬島におけるタマムシ科の採集記録

筆者は、2012年7月にトカラ列島の諏訪之瀬島を訪れ、タマムシ類の調査をすることができたので、その結果を報告する。秋山・大桃(1997)の日本産タマムシ科チェックリスト、およびその後の筆者の知見でも、これまで諏訪之瀬島におけるタマムシ科の採集記録はないと思われる。訪れた諏訪之瀬島の植生はトカラ中之島とよく似ている。しかし、中之島で見られる多くの種類は採集できなかった。

報告に先立ち、今回のトカラ列島での調査・採集の許可を頂いた十島村役場の方々、および親切にご協力頂いた島民の方々に感謝申し上げます。

(1)ウバタマムシ 基準亜種 *Chalcophora japonica japonica* (Gory, 1841)

1♂, 鹿児島県鹿児島郡十島村諏訪之瀬島, 14. vii. 2012, 筆者採集; 1♀, 同一採集地, 15. vii. 2012, 筆者採集.

(2)クリタマムシ トカラ中之島亜種 *Toxoscelus auriceps tokarensis* Y. Kurosawa, 1977 (図1)

1♂, 同一採集地, 14. vii. 2012, 筆者採集; 5♂♂2♀♀, 同一採集地, 15. vii. 2012, 筆者採集.

(3)ネムノキナガタマムシ *Agrilus subrobustus* E. Saunders, 1873

4♂♂1♀♀, 同一採集地, 14. vii. 2012, 筆者採集; 1♂, 同一採集地, 15. vii. 2012, 筆者採集.

諏訪之瀬島のクリタマムシは、色彩の傾向として、



図1. クリタマムシトカラ中之島亜種♂(諏訪之瀬島産).

前胸背が赤紫色の光沢を持ち、鞘翅全体が赤紫色または真鍮色の弱い光沢を持つ焦げ茶色である。一方、中之島のクリタマムシでは、体面の上部全体がわずかに赤紫色の光沢を帯びた黒色である(Kurosawa, 1977)。黒沢は、トカラ中之島亜種の特徴として、雄の腹端の両側が弧状にえぐれていることを挙げている(Kurosawa, 1977)。諏訪之瀬島の個体の雄では、この腹端のえぐれがトカラ中之島の個体の雄よりもやや強く、かつ明瞭である。これらの差異はあるが、トカラ中之島亜種の特徴を持っていることから、ここではトカラ中之島亜種とした。

諏訪之瀬島では、アヤムネスジタマムシの食樹であるホルトノキをスイーピングしてもこの種は採集できず、またムネアカチビナカボソタマムシの食樹であるアカメガシワをスイーピングしても同様にこの種を採集できなかった。これらの種は、中之島では普通に見られる種である。その他の中之島に生息するタマムシ科の個体も、諏訪之瀬島では採集できなかった。このことから、諏訪之瀬島に生息するタマムシ科の種は、中之島に生息する種の部分集合であるように思われる。また、諏訪之瀬島の活火山である御岳の山麓では、木の葉上に火山灰が積もっており、火山活動も活発であることから、諏訪之瀬島で生息するタマムシ科の種が限定されている原因としては、火山の噴火および降灰などによる種の絶滅があったのではないかと考えられる。

引用文献

Kurosawa, Y., 1977. A revision of the buprestid beetles of the genera *Toxoscelus* and *Cryptodactylus* in Japan and its adjacent regions. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, A3: 169–186.
秋山黄洋・大桃定洋, 1997. 日本産タマムシ科チェックリスト. 月刊むし Supplement (1): 1–68.

(服部宇春 横浜市旭区)